

如^レ夢[、]一^二をば申^セども、第三[、]不^ハ申^ハ候。第三[、]法門^は天台[・]妙樂[・]傳教^も粗示^セ之[、]未^レ事^了。所詮讓[、]與[、]末^法之^今也。五々百歲^は是也。但此法門[、]御論談^は余^は不^レ承[、]候。彼^は廣學[・]多聞^の者也。はばかりく^くみ^①見^たくと候しかば、此方のまけなんども申^ツつけられなはいかんがし候べき。但彼法師等^が彼の釋^を知[、]候はぬはさてをき候ぬ。六十卷になしなんど申^スは天^のせめなり。謗法^の科^の法華經^の御使^に値[、]て顯^レれ候なり。

又此沙汰^の事も定[、]てゆへありて出來せり。かしま[（]賀島[）]の大田次郎兵衛[・]大進房[、]又本院主^もいかにとや申^スぞ。よくく^くきかせ給^レ候へ。此等^は經文^に子細^{ある}事なり。法華經^の行者^をば第六天^の魔王^の必障^{べき}にて候。十境^中の魔境^此也。魔^の習^は善を障[、]て惡^を造[、]しむるをば悦[、]事に候。強[、]て惡^を不^レ造^者をば力^不及[、]して善^を造[、]しむ。又二乘^の行^をなす物^をばあながちに怨^をなして善^をす[、]むるなり。又菩薩^の行^をなす物^をば遮[、]て二乘^の行^をす[、]む。最後に純圓^の行^を一向^{にな}す者^をば兼別^等に墮^{なり}。止觀^の八等^を御らむあるべし。

① 又彼云、止觀行者^は持戒^等云云。文句^の九^{には}初二三^の行者^の持戒^をば此^をせいす。

經文^又分明^也。止觀^に相違^の事^は妙樂^{問答}有^之。記^九可^見。初隨喜^有二。利根^の行

者持戒を兼たり。鈍根は持戒誓止之。又正像末の不同もあり。攝受折伏の異あり。傳教大師の市の虎事思合すべし。此より後は下總にては御法門候べからず。了性思念をつめつる上は他人と御論候わばかへりてあさくなりなん。

彼了性と思念とは年來日蓮をそしるとうけ給る。彼等程の蚊虻の者が日蓮程の師子王を不聞不見して、うはのそらにそしる程のをこじん(嗚呼人)なり。天台法華宗の者ならば、我は南無妙法蓮華經と唱て、念佛なんど申者をばあれはさる事なんど申だにもきくわいなるべきに、其義なき上、偶申人をそしるでう、あらふしぎく。

大進房が事。さきぐかきつかわして候やうに、つよぐとかき上申させ給候へ。大進房には十羅刹のつかせ給て引かへしせさせ給とをぼへ候ぞ。又魔王の使者なんどがつきて候けるが、はなれて候とをぼへ候ぞ。惡鬼入其身はよもそら事にては候はじ。事々重候へども此使いそぎ候へばよる(夜)かきて候ぞ。恐々謹言。

十月一日

日 蓮花押